

平成 25 年 7 月 12 日
中国電力株式会社

カンムリウミスズメ生息状況調査について

当社が上関原子力発電所建設予定地の周辺で実施中の「カンムリウミスズメ生息状況調査」について、最近、調査方法の不備を指摘するような報道が一部マスコミにおいて取り上げられました。本種に関するこれまでの対応経緯や現在の調査目的・調査方法については、以下のとおりであり、当社は本種を含め新たに確認された希少な動植物についても、環境監視委員会等の専門家の指導を得ながら、必要な調査を実施し保全対策を講じるなど、適切に対応しています。

また、本種のモニタリング調査については、準備工事中だけでなく、準備工事を一時中断している現在も継続して行っており、その結果については、都度公表しているところです。

環境監視委員会

上関原子力発電所（1, 2号機）建設工事に伴う環境監視等に関する事項についての指導を得ることを目的に当社が設置した学識経験者等で構成する会議体。（

1. 生息状況調査（H20.5～H21.6）

（1）調査の目的

上関の環境影響評価については、平成 13 年に必要な手続きを終了していますが、その後平成 20 年に本種の確認情報が得られたことから、平成 20 年 5 月から平成 21 年 6 月の約 1 年間、同発電所計画地点を含む広範囲（約 50 k m 範囲内）で調査（生息状況、繁殖確認等）を実施しました。

（2）調査結果

調査の結果は以下のとおりです。

本種は計画地点周辺海域（約 50 k m 範囲内）（図 1 参照）において広く確認（延べ確認個体数 173 羽）され、特に、計画地点から南方約 10 k m 以南で多く確認されました。

工事施工区域（図 2 参照）内での出現はありませんでした。

計画地点の地形改変区域およびその周囲の海岸部（図 3 参照）において、営巣は確認されませんでした。

したがって、現時点において当社は、計画地点の地形改変区域およびその周囲の海岸部での本種の営巣はないと考えています。

また、専門家の見解を踏まえ、適切な配慮（海域作業時の周囲監視および作業員への注意喚起等）を実施することにより、発電所の建設工事が本種の生息に著しい影響を与えることはないと考えています。

2. モニタリング調査 (H21.9～現在)

(1) 調査目的

生息状況調査は、1.のとおり実施済みですが、本種の生態については未解明な部分が多いことや本種の重要性と希少性に鑑みて、平成21年9月以降も引き続き発電所の建設・運転により影響を受ける可能性のある計画地点周辺海域(5km範囲)において生息状況の調査(モニタリング)を実施しています。

(2) 現在の調査結果

調査結果は別ページに記載しています。現在までのところ、平成20年～21年に実施した生息状況調査結果と比較して大きな変化はないことを確認しています。

なお、当社が実施している本種の調査方法等については以下のとおりです。

項目	内容
調査時期	1回/月(9,11月除き) 初日夕刻・翌日早朝の2日間(3時間30分程度/日)
調査場所	計画地点から5km範囲(図4参照)
調査方法	海上より目視観察 <従来、荒天の場合は陸上からの目視観察(1km程度)としていましたが、平成25年度から繁殖期(3～6月)については海上からの目視観察に変更>
調査人員	3名

【添付資料】

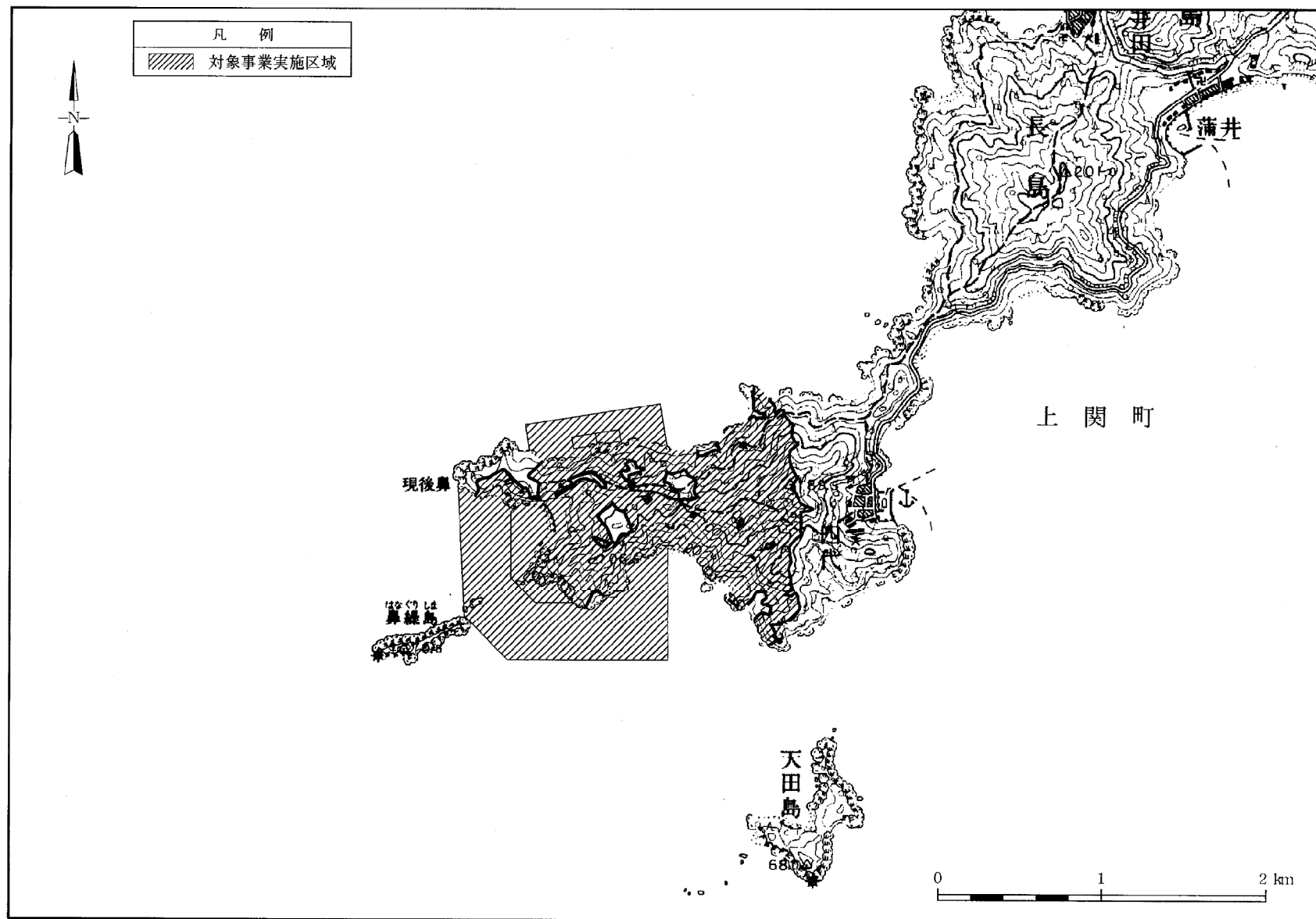
- 図1 調査範囲図(50km範囲)
- 図2 工事施工区域
- 図3 営巣調査場所
- 図4 調査範囲図(5km範囲)

以上

図1 調査範囲図 (50km範囲)



図2 対象事業実施区域（工事施工区域）



注：海域については、工事区域を包絡する範囲を対象事業実施区域としている。

図3 営巣調査場所

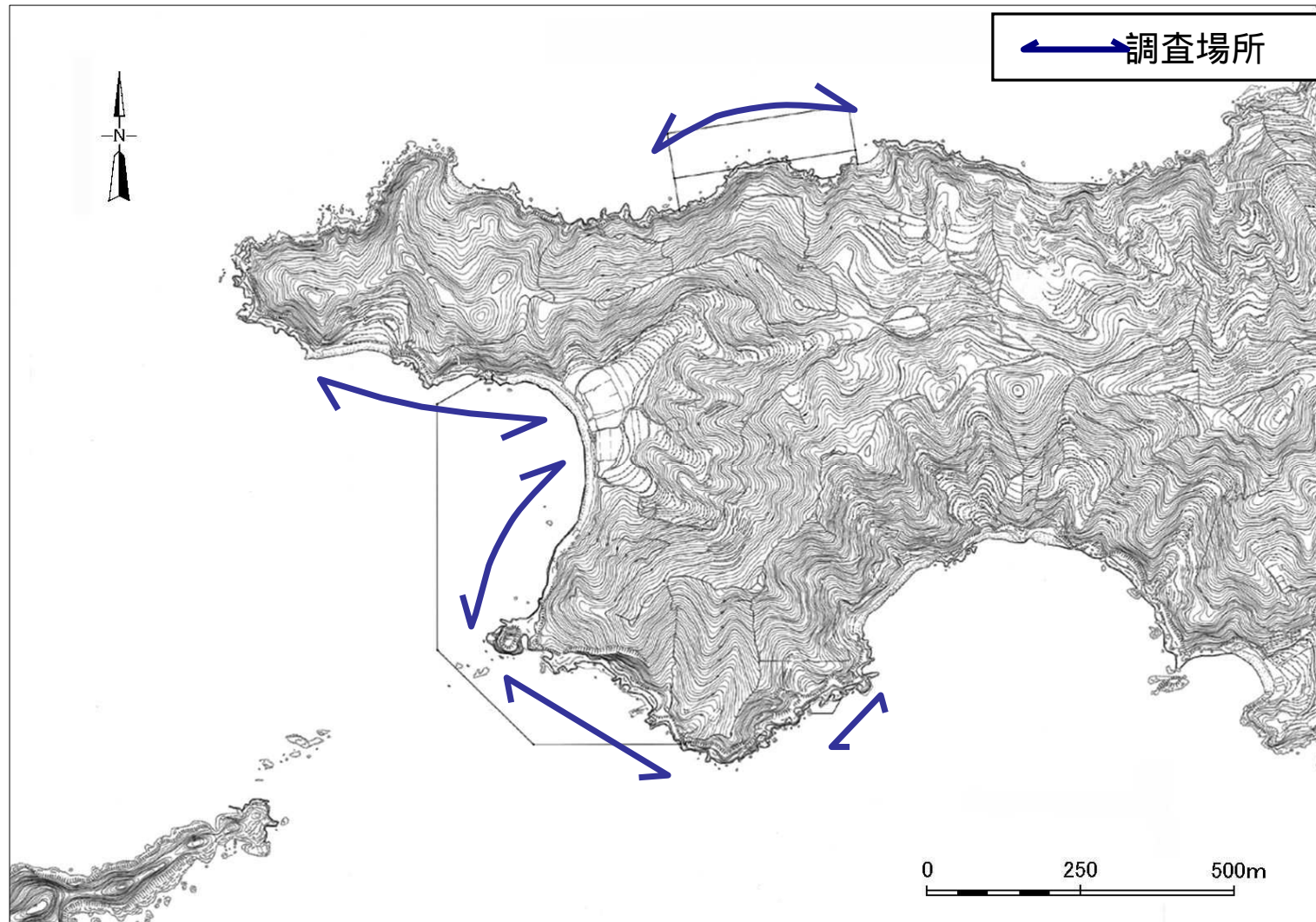
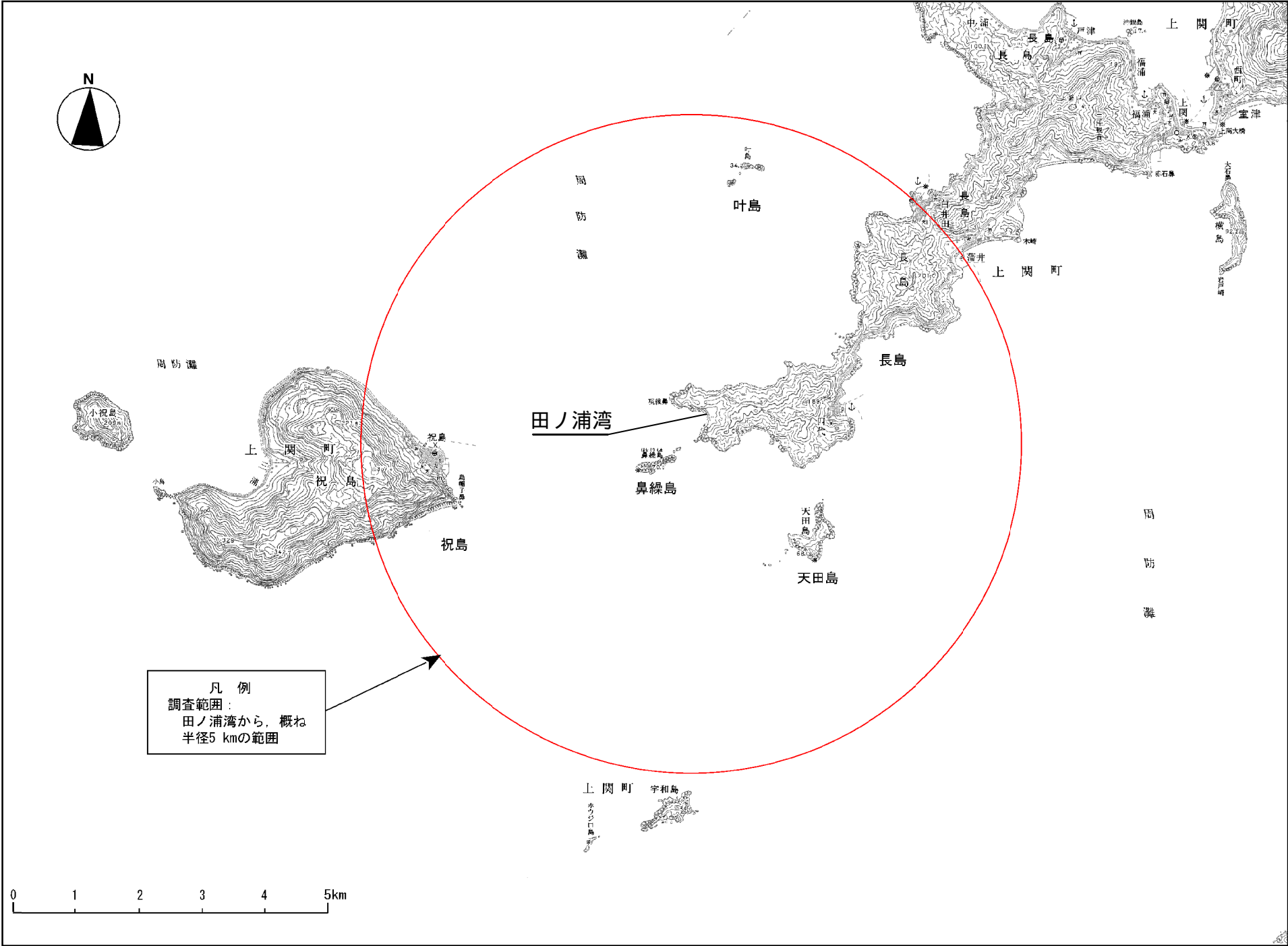


図4 調査範囲図 (5km範囲)



凡例
 調査範囲：
 田ノ浦湾から、概ね
 半径5 kmの範囲